



### 野崎氏から贈られた 悔を受納せざる理由

#### 近く比佐家から公表されん 死せる母も怨んだ絶交状

石城郡民政黨に於ける野崎氏永遠に忘れまじと語つて若松兩派の軋轢が過般代議のた夫れが今回の結果を齎す比佐家の葬儀に當り野崎氏から贈つた悔みを突き返したることによつて其の疾視模様であるからこれが出れば石城の

### 是非の論を沸騰せしめ

悔みは其後幾度か送りつ返されつ今尚ほ宙に迷ふ猶稽を演じてゐるが事茲に至れる所以のものは可也に深い事情があるもので近く

### 比佐家

から詳細なる真相を世上に訴へんとする其の大要を仄聞するに比佐氏が現代議士に座する去る選挙に於て氏家代議士を應援したる

### 野崎氏

が共に運動に熱狂せる投票期日を目撃に控いて比佐氏に送つた絶交状の中には半回の悔みを受納せざる深刻な理由があらしく比佐氏の死せる毎堂は當時之を抱へて野崎氏の

### 仕打を

心好しとせ

【刊夕】日四月四  
日曜大祭日  
一月五廿五  
二月五廿五  
三月五廿五  
四月五廿五  
五月五廿五  
六月五廿五  
七月五廿五  
八月五廿五  
九月五廿五  
十月五廿五  
十一月五廿五  
十二月五廿五

### 同党内

に大なる衝動が惹起するに相違なく比佐氏對野崎氏の態度の是非も自然判明されるであらう

### 入學に際して

保護者へ (終) 赤津第三校長 某醫學士の家での夕食後の出来事であつた博士の坊やが其の日學校で學んだことをその姉に語つてゐたが坊やの云ふことが誤つてゐるので姉が正してやつてゐたのかしなかに聞き入れな

### 平町の

就學兒童 平町に於ける本年就學兒童は總數六百四十二名で去一日から可憐な少年少女達のいそぐとする通學を見せ

### 花に華をかざる

手踊る藝妓の役割 平の櫻は四五日で咲かう 愈々二味線と踊手が揃ふ 公園の櫻は雷漸く豊けの追つて来た

### 郵便物の

集配減回 四月一日から 日曜と祭日に 郵便集配事務取扱の一部を改正し日曜祭日にける郵便物の配達は午前七時半取

### 積載の

積載の 荷物を減茶 動車の荷物は若松市に藝妓屋を営んでゐた赤須たけが

### 反對藝妓屋の荷物

若松から平町に自動車にて 移轉途中にて損害六百圓 石城郡小川村の江田地内警備道具であつた此の損害約六

### 平町役場の

吏員整理 書記二名と小 使全部の入替 平町が昭和六年年度豫算の緊

### 首相再入院

首相再入院 頤口首相容態悪化の爲四日 齋田、稻田、溝淵主治醫診

### 呼び物の

呼び物の 藝妓の手 踊も同町新田町品澤、真砂 家兩女將が腕によりをか

### 同公園

同公園 得意の盛装 既報十日に於ける忠魂祭 は既報十日に於ける忠魂祭

### 祭日は

祭日は 眞に中春の 好日和で誰にも伸び立つ散

### 平青年の

平青年の 幹部會 三日マルト モビルで 平町青年團では去る三日午

### 平署員異動

平署員異動 保安課大久保直人江名 駐在巡查へ、後任署内司

### 故障を

故障を 生じ修理中 郡山發の上り貨物列車が藤 進して来たので前記のトラ

### 積載の

積載の 荷物を減茶 動車の荷物は若松市に藝妓 屋を営んでゐた赤須たけが

### 呼び物の

呼び物の 藝妓の手 踊も同町新田町品澤、真砂 家兩女將が腕によりをか

